

令和5年度（2023年度）

北海道青少年中国友好訪問事業

報告書

令和6年（2024年）2月発行
北海道教育庁学校教育局高校教育課

はじめに

北海道教育委員会は、令和3年度に北京市教育委員会と教育分野に関する覚書を締結し、本年度初めて「北海道青少年中国友好訪問事業」を実施しました。全道各地の高校等から多くの応募があり、16名の生徒が約1週間北京市及び北京市近郊を訪問し、大きく成長して本道に戻ってきました。

日本社会全体におけるグローバル化の進行、日本企業の海外進出あるいは外国企業の日本進出などにより、日常生活において外国人と関わる機会はより一層身近なものになってきています。高校生段階で海外留学を通じて異なる習慣・価値観に触れること、外国人と意思疎通を図ること、見知らぬ土地で多くの苦楽を経験することは、何事にも代えがたいものです。

今回の参加生徒に対するアンケートでは、16名全員が「中国への理解が深まった」「国際社会への関心が高まった」と回答し、8割を超える生徒が「この経験を職業選択や進路選択に生かしたい」と回答しています。

多くの参加者が本事業を契機に、本道はもちろんのこと、国内外で大いに活躍されることを期待しております。

最後になりますが、事業の実施にあたって調整をしていただいた、中華人民共和国駐札幌総領事館の皆様、北京市教育委員会の皆様はじめ、関係者皆様に厚く御礼申し上げます。

道教委では、引き続き北京市との友好親善に努めるとともに、本道の高校生に夢と目標を与える機会を提供するよう取組みを進めてまいります。

令和6年（2024年）2月

北海道教育庁学校教育局高校教育課長 相馬利幸

【参加者 在籍校及び学年】

No.	学校名	学年
1	北海道滝川高等学校	2
2	北海道札幌東高等学校	1
3	北海道札幌東高等学校	1
4	北海道札幌東高等学校	1
5	北海道札幌東高等学校	2
6	北海道札幌東高等学校	2
7	北海道札幌啓成高等学校	1
8	北海道札幌国際情報高等学校	1
9	北海道札幌国際情報高等学校	1
10	北海道札幌東商業高等学校	1
11	北海道札幌東商業高等学校	2
12	北海道札幌東商業高等学校	2
13	北海道千歳高等学校	1
14	北海道室蘭栄高等学校	1
15	北海道室蘭栄高等学校	1
16	北海道登別明日中等教育学校	5
引率	北海道教育庁学校教育局高校教育課	課長補佐
	北海道札幌東高等学校	教諭

【日程表】 令和5年（2023年）10月21日（土）～28日（土）

日にち	午前	午後	ホテル
21日（土）	出発式（新千歳空港）	北京首都国際空港着	メディアセンターホテル
22日（日）	慕田峪長城	天壇公園 紅劇場（雑技鑑賞）	
23日（月）	北京大学（キャンパスツアー）	月壇中学校（授業参観、交流） 南鑼鼓巷	
24日（火）	頤和園	円明園 月壇中学校（クラブ活動） 前門大柵欄	
25日（水）	西城外国語学校	故宮博物館、天安門 王府井、天安門広場	
26日（木）	ユニバーサルスタジオ北京		
27日（金）	精彩瓷博物館	北京動物園 月壇中学校（送別会）	
28日（土）	北京首都国際空港発	新千歳空港着	

参加生徒・引率教員報告書

1	北海道滝川高等学校 2年 「広大な地～中国を訪れて」	1
2	北海道札幌東高等学校 1年 「好きな中国に飛び込んで」	3
3	北海道札幌東高等学校 1年 「友情は国境を越える」	4
4	北海道札幌東高等学校 1年 「成長できた私」	5
5	北海道札幌東高等学校 2年 「海内存知己、天涯若比鄰」	7
6	北海道札幌東高等学校 2年 「近い国での歴史のちがい、学びのちがい」	8
7	北海道札幌啓成高等学校 1年 『『大きい国』中国を訪れて』	9
8	北海道札幌国際情報高等学校 1年 「初の試みと発展」	10
9	北海道札幌国際情報高等学校 1年 「こんな形で来られるとは！」	13
10	北海道札幌東商業高等学校 1年 「中国で過ごした8日間」	16
11	北海道札幌東商業高等学校 2年 「初めての中国で過ごして学んだこと」	17
12	北海道札幌東商業高等学校 2年 「初めての中国！」	19
13	北海道千歳高等学校 1年 「中国で学び得たこと」	20
14	北海道室蘭栄高等学校 1年 「一生の宝物」	22
15	北海道室蘭栄高等学校 1年 「意外な視点」	23
16	北海道登別明日中等教育学校 5年 「忘れられない思い出」	26
17	北海道札幌東高等学校 教諭 「北海道青少年中国友好訪問事業の引率業務報告書」	28
18	アンケート結果から見える事業効果	29

北海道滝川高等学校 2年 「広大な地～中国を訪れて」

今回私が中国友好訪問事業に参加しようと思ったきっかけは2つあります。

1つ目は、去年の冬頃からスマートフォンのアプリを使用して中国語を勉強し始めていたからです。元々中国の伝統的なものや文化が好きで、より中国について知りたいと思い、中国語の勉強を始めてみました。中国語の単語やフレーズを知っていく中で、私が得た知識が本当に正しいのか、中国で生活する人々が本当にそれらを使っているのかなどが気になり始めました。そのとき、中国に行くことができる事業があることがホームルームで知らされ、絶対に参加したいと思い応募しました。

2つ目は、私が今まで見てきた他の留学などと比べて、かかる費用が安かったからです。今まで何度か学校から留学の案内がありましたが、どれも費用が高く、両親に相談する勇気が出ませんでした。しかし、費用が5万円程度と書いてあるのを見て、これなら両親に相談できると思い、応募に踏み出すことができました。

現地での活動では、様々な思い出とともに学びを得ることができました。特に印象に残っているのは、現地の高校生との交流です。何人かの高校生とWeChatを交換し、いつでも交流できるようになったことです。日本に帰ってきたからも時々勇気を出して中国語での交流を試み、中国語の勉強へのモチベーションを高めることができます。私達日本人と、中国人の彼らとの生活や考え方における相違点や共通点などを知ることができ、中国の伝統的なものだけでなく、現在の中国へ対する興味が高まりました。

また、はじめての海外だったこともあり、中国に行く前は、少し中国人に対して怖いという感情を心の何処かで抱いてしまっていたけれど、実際に自分の足で中国へ行き、高校生や店員さんなど様々な立場の人々と触れ合う中で恐怖



心は消え、私達を楽しませようと優しく接してくれたことへの感謝の気持ちでいっぱいになりました。私の拙い中国語を聞き取り、簡単な中国語で返してくれた人もいて、すごく嬉しかったです。そして、中国の歴史ある建造物もたくさん見ることができました。万里の長城や頤和園、円明園など様々な場所を訪れ、全て感動し心に残っています。私の中で特に印象に残っているのは故宮です。故宮の敷地は思っていた何倍も広く、すべてを見て回ることはできませんでしたが、一部でも十分感動しました。中国の歴史や、当時どこでどんなことが行われていたのかなどを説明してもらいながら故宮を回ってもらえたので、当時の人々の生活の様子などを想像しながら建物などを見ることができ、とても楽しかったです。故宮には、ほかに訪れたところよりも漢服を来た人が多く、漢服が大好きな私にとっては夢のような空間でした。様々な地域、時代の漢服を故宮内で見られて、まるでタイムスリップしたかのようにとても楽しかったです。今回行った北京以外にもまだまだたくさん中国の魅力的な場所がたくさんあると思うので、いつかお金をためて、次は自分で中国に行ってみたいです。その時までにもっと中国語を勉強し、中国語が話せる友達や翻訳の方がいなくても自分の力だけで中国を楽しむことができるようになりたいです。

中国友好訪問事業全体を通して、様々な方面での学びを得ることができ、応募して本当に良かったと感



じました。言語能力や金銭面などから、自分だけではとても行くことができなかつたと思うので、とても貴重な経験の場となりました。今回の経験を、今後中国を含む海外の人との交流や海外へ行く機会が訪れたときに活かしていきたいです。

また、日本にいたら気づけなかつたであろう中国の素晴らしさや、中国で生活している人々の温かさを自分の目で見て認識できる訪問先ばかりで、すごく充実した一週間を過ごすことができました。私は海外に行くこと自体が初めての経験で、わからないことや不安でいっぱい

の状態を当日を迎えましたが、中華人民共和国駐札幌総領事館の皆様や北海道教育委員会の皆様、一緒に中国に行った北海道の高校生の皆のおかげで、不安や緊張がほぐれ、一週間楽しく過ごすことができました。一週間という短い期間だったけれど、とても楽しく充実した時間を共有した皆様と出会えたこと、また、心優しい中国人の皆様に出会えたことは今後一生思い出に残ると思います。この思い出をただの思い出として消化せず、他人に伝えるなどして、私が見聞きし学んだことを共有し、中国の魅力を広めていきたいです。

北海道札幌東高等学校 1年 「好きな中国に飛び込んで」

私が応募したきっかけは、二つあります。一つ目は、以前から中国の俳優、ドラマ、アニメが好きだったこと、二つ目はグローバル化が進む潮流の中、国際交流や異文化理解を早いうちに経験したかったことです。私の好きな中華時代劇やドラマの元となっている歴史的建造物を自らの目で見たり、異文化に飛び込んで中国の生徒と交流し、歴史や文化に触れ、自らの固定観念や価値観を見直したりすることができる機会だと思いました。

現地での活動は本当に刺激的なものでした。聞き慣れない言葉に戸惑いつつも、北京各地で初めて口にする料理は筆舌に尽くしがたいほど美味しく、目にする景色は瞬きするのも惜しいほど美しく壮大でした。

中国の生徒との交流において、とても貴重な体験をしました。交流している時、私たちと中国の生徒たちは心が通じ合っていると感じました。言語や文化、価値観は異なっていますが、国境を越えて感情を伝えることができることを実感しました。中国の生徒たちが、日本語で温かい言葉をかけてくれたように、私も中国語や英語で自らの思いを相手に伝えたいと思いました。

この研修は、私の人生に大きな成長をもたらしたと思います。中国の歴史や文化、人々の暮らしを自らの目で見ただけで、今までの自分は本当にグローバル的視野が狭かったと気づかされました。私の思っていた「普通」とは他の人たちにとっては普通ではない、と改めて感じました。親元から離れて海外で過ごしたという経験が自信を持たせてくれました。現在の私は、かつての私と比べて信じられないくらい、挑戦することに前向きになっていると感じています。中国の生徒たちとの交流で外国語学習に改めて意義を感じ、学習に励んでいます。この研修で得た貴重な経験と自信を、次の挑戦に繋げていきたいです。



北海道札幌東高等学校 1年 「友情は国境を越える」

私が中国訪問事業に応募したきっかけは、中国のアニメやドラマに興味があったことでした。中学生の頃にSNSで知ってから、原作の小説を買うほど熱中し、いつの間にか、中国語を自分で勉強したり、中国の文化や歴史を調べたりするなど、中国への憧れが大きくなっていました。

また、将来は、大学で中国について学び、留学もしてみたいと思っていました。そんな中、ある日、学校で中国訪問事業の募集要項が配布され、これは応募するしかないと思い、同じく中国が好きな友人と一緒に応募しました。

ずっと中国に行ってみたくて願っていた私にとって、北京市での日々は驚きと感動ばかりでした。北京市は、近代的な建物と歴史的な建物が立ち並び、都市部から少し離れると広大な自然が広がる、とても魅力のある都市でした。特に、世界遺産となっている万里の長城や天安門は、教科書の何倍もの迫力で、思わず息を呑むほどでした。中でも、円明園の美しい景色が一番印象に残っています。残念ながら湖の蓮の花はもう咲いていなかったのですが、次に中国を訪れたときにはまた行ってみたいと思いました。他にも、北京動物園でパンダを見たり、博物館で工芸品を鑑賞したり作品を作ったりもできて、とても充実した訪問でした。また、訪問したのは平日だったにもかかわらず、どこも人がたくさんいて、14億人という人口を誇る中国の凄さを目の当たりにしました。



現地での主な活動である月壇中学校との交流は、とても貴重な体験となりました。月壇中学校の生徒は、日本語を勉強しているとは聞いていましたが、想像以上に流暢な日本語を話すので、とても驚きました。私が参加したクラスでは、宮沢賢治の授業が行われました。『雨ニモマケズ』を中国語、日本語、英語で朗読したり、調べたことをスライドにまとめたり、『注文の多い料理店』の寸劇を行うなど、私たちのためにさまざまな発表をしてくれました。別の日には、グラウンドで同心鼓や輪回しなどをして、さらに仲を深めることもできました。しかし、お別れの日はあるという間に来てしまい、送別会のときに、あまりにも悲しくて北海道に帰りたくないと思いました。もっと月壇中学校の生徒との交流時間があたらよかったなあとと思うほど、とても忘れがたい時間でした。

この訪問事業では色々な人と交流し、たくさん大切な友達ことができました。月壇中学校の生徒とは、今でも中国のSNS「WeChat」で連絡をとっています。友情は国境を超えるのだと、改めて感じました。このような貴重な経験ができたのも、この事業を企画・運営してくださった全ての方々のおかげです。中国総領事館の方々をはじめ、北海道と北京の教育委員会の方々、現地のガイドさんや月壇中学校の皆さん、特に一緒に8日間を共に過ごしていただいた北海道教育委員会の方、引率の先生、訪問団の仲間など、本当にたくさんのお出会いがあり、伝えきれないほどの感謝でいっぱいです。この研修で学んだことを生かし、今後も視野を広げながら、さまざまなことに挑戦していこうと思います。そして、またいつか中国を訪れたいです。

北海道札幌東高等学校 1年 「成長できた私」

私は、この中国研修を終えて、いくつかの点で成長できたと感じています。

実は、応募する前、この研修に乗り気ではありませんでした。中国語や、中国の歴史、文化もしっかりと学んだことがない私には縁がないと思い、消極的でした。しかし、両親の強い勧めもあったことから、一夜にして応募に転じました。おもしろいことに、応募書類を書いているうちに挑戦してみたいという気持ちが強くなりました。中国に関する知識がほとんどない状態で行くのはもったいないと思い、中国史好きの父にいろいろ教わったり、映画『ラストエンペラー』を視聴したりするなど、いろいろ興味が湧いてきました。渡航前に関心を広げて学べたことが、まず一つの成長だと思いました。

現地での活動について、応募当初から不安だったことがいくつかありました。コミュニケーションに自信がないため、交流先の中国の生徒たちはもちろん、初めて会う他の参加生徒と仲良くなれるか、不安でした。携行品や時間を1人で管理し切れるか、自信もありませんでした。しかし、思いのほか不安は解消されていきました。

研修中、優しく話しかけてくれた友人には、とても感謝しています。2人とも寝坊して遅刻してしまっても、あたたかく許してくれた仲間たちにも感謝しています。時間管理には失敗してしまったわけですが、いつまでも引きずっていても仕方がないと思い、しっかり反省して2人で協力することにして、その後は同じようなことを繰り返すことはありませんでした。この部分でも成長できたのかなと思っています。

中国の生徒たちともコミュニケーションをとることができました。月壇中学校での授業交流では6人からなる班に入れてもらい、その中の2人が積極的に日本語で話しかけてくれました。わからないことをたくさん教えてくれて、仲良くなることができました。

交流の中で、「日本の高齢者は普段どのように過ごしているのですか」と聞かれました。この問いに対し、私は上手く答えることができなかつたと思います。考えても思いつかず、自分の祖父母のことを思い返しながら話しましたが、それ以上に自分の高齢者との関わりの薄さに気づかされました。中国の高齢者についての話を聞いて、中国の生徒たちが高齢者の生活や課題を熱心に考えていることがわかりました。また、どちらの国の高齢者も趣味を楽しんだ生き方をしているという点では同じでも、その趣味は文化の特色が出ていて面白いと感じました。そして何より、生徒たちの日本語がとても上手で、楽しんで日本語を学び、日本文化に強い興味を持っていることに衝撃を受け、その熱量を見習っていきたくと思いました。

授業交流が終わると熱烈な歓迎会が行われ、互いにプレゼンテーションを披露しました。私が作成に係わったスライドが功を奏したようで、紹介した北海道弁で話しかけてくれた中国の生徒がいて、とても嬉しく思いました。歓迎会のあとは写真撮影をしたり、手紙やプレゼント、連絡先を交換したりなど、交流を深めました。



北京の観光でも驚いたことはたくさんありました。南鑼鼓巷（ナンルオクーシャン）でキャッチセールスにあたり、王府井（ワンフーチン）で人形のように静止している人がいたり、書ききれないほどです。日本との違いもありました。万里の長城で、日本なら柵が設置されていそうな危険な箇所には設置されていなかったり、ほとんどの観光地で中国の国旗が売られていて持ち歩いている人が多くいたり、アパートの窓に外部からの侵入を防ぐ防犯対策としての鉄格子がついていたり、日本では考えられない場面を多く見かけました。日本でサーカスを見たことがあるのですが、中国の雑技団には、類似の演目もありながら、

中国らしい変面や自転車・太鼓を用いたものもあり、国の特色がまさに現れていると感じました。北京観光で最も印象深かったのは、紫禁城です。土地の広さ、建物の豪華さには圧倒され、皇帝の存在の大きさ

を体感しました。中国史に詳しくない私でも、その魅力に引き込まれて中国史を学んでみたいと思いました。

研修の後半で、再び月壇中学校を訪れると、仲良くなった友人がさらにプレゼントを用意してくれました。中国の伝統的な団扇や、札幌は寒いからとマフラーを贈ってくれました。手紙が特に嬉しく、短い時間だったにもかかわらず、生徒たちが私たちに積極的に関わってくれたおかげで、仲良くなることができ、別れ難いと思いました。

振り返ってみれば、この研修に参加して良かったと思います。乗り気ではなかった私ですが、せっかく参加するならば、思い込みをなくして物事を見ることができるようになる、という目標を持って参加しました。乗り気になれないのは、どこか中国に対する何らかの思い込みが自分にあるのではないかと思います。それならば、現地に行ってみて自分の目で見れば、いろいろなことを知ることができて、思い込みによって消極的になってしまう自分の傾向を直せるのではないかと考えました。目標は達成できたと思います。人との関わりや歴史を体感する中で中国の魅力を発見でき、それを日本で発表する機会を通して、自分の気づきをさらに周囲に広げられていることが、何よりの成果だと思っています。今後も、この気づきを大事にしながら成長の機会を増やしていきたいと思っています。



北海道札幌東高等学校 2年 「海内存知己、天涯若比鄰」

私がこの中国友好訪問事業への参加を決めた最大の理由は、海外へ赴き、自分には無い独自の視点や価値観に触れることで知見を広げ、多方面で活躍が出来るようになりたい、教科書などで学んだ中国の歴史や文化、建造物を、実際にこの目で見たい、感じたい、また使う言語が異なっても気持ちは通じるのかを確かめたいと思ったからです。

中国への渡航において私が学んだことは、現地の人の温かさ、教育への注力です。中国の観光名所である南鑼鼓巷（ナンルオクーション）では、目当ての物を探して道を尋ねた際に快く教えてくれる人がとても多く、深く感動しました。行く先々の観光地や施設、学校で挨拶をした時に、笑顔で返してもらえた時は本当に嬉しかったです。はじめは簡単ないくつかの中国語しか使えませんでした。もっと気持ちを伝えたいと思い、渡航中に覚えた中国語は、その都度使いました。「你好、謝謝」と、言うだけでお互いが笑顔になることのできる挨拶、感謝を伝える言葉は、本当に素晴らしいものだと強く実感しました。

月壇中学校では、我々のプレゼンテーションで北海道の方言について紹介しました。その後の交流で中国の生徒さんと一緒に撮った写真を見せあって、「『めんこいでした』よ」と評してくれた時には、必死にコミュニケーションをとろうとしている自分に気づくとともに、彼らにとっては外国語である日本語の、しかも方言を使ってみようとする中国の生徒さんたちの意識の高さに尊敬の念でいっぱいになりました。私も、伝えたい気持ちが伝わるような表現で伝えたい、もし自分ももっと中国語を話すことができれば、さらに感謝を伝えられたのに、と思うことが本当に多かったです。月壇中学校、西城外国語学校、北京大学への訪問では、数々の特色ある中国の教育を肌で感じ、中国が青少年の教育を重んじていることを実感しました。

中国での食事は、どれもとても美味しかったです。その中でも印象に残っているのが、研修も終盤に差し掛かった7日目に食べた地方料理です。それまでに触れたものの多くは、清の時代の華々しい歴史を感じさせられる歴史的建造物や特有の文化でしたが、地方料理を食べて初めて、それまで巡った地では中国の一部しか見えていなかったのだと分かりました。それがきっかけとなり、中国が抱える様々な問題についても考える機会にもなりました。

日本と中国の関係が懸念されるような話題が報じられるなど、少し不安な状況下での渡航ではありましたが、現地に入るとそのような心配は全く不要なことがわかり、すぐに中国の生徒たちと打ち解けることが出来ました。月壇中学校での体験授業の際に仲の良くなった友人からは、別れの際に『海内存知己、天涯若比鄰』（海内(かいだい)知己を存すれば、天涯も比隣(ひりん)の若し、〈出典〉唐初期の詩人王勃(おうぼつ)が友人を見送った際の詩)という素敵な言葉をもらいました。この言葉は、『心の知れた友がいれば、世界のどこにいても近しく感じる』という意味です。言語や文化が異なっても喜びを共有することができ、異なっているからこそ気持ちが通じ合い分かり合えた時の嬉しさは、またひとしおでした。仮に国と国との間でうまくいかないことが生じることがあるとしても、このような青少年の国境を超えた交流が本当に大切なものなのだと思えました。そして、今現在、その役目を担っているのは我々であるという自覚もこの訪問で湧きました。今回の渡航で得た貴重な経験や新たな発見、価値観は、自分自身を見つめ直し、成長することに繋がり、何事にも失敗を恐れず飛び込んで挑戦していこうと思えるきっかけにもなりました。この経験を生かし、将来は様々な人々と対話し協働することで、多方面で社会に貢献したいと思えます。

北海道札幌東高等学校 2年 「近い国での歴史のちがい、学びのちがい」

私が北海道青少年中国友好訪問事業に応募したきっかけの一つは、英語の授業で先生が勧めてくれたことです。海外の生活や学校、そして中国の文化に興味があり、直接見てみたいと話したことがあったからです。「見学旅行との日程が重なってしまう恐れがあるが、外国に行き異文化を学ぶ良い機会だ」と背中を押していただき、応募することにしました。



現地では、とても楽しく、学びのある8日間を過ごすことができました。北京に到着後、最初に万里の長城を訪れました。万里の長城は、当時のモンゴルからの攻撃を防ぐために作られたものの、後に壊され、そしておよそ400年前に再建されたものだと知りました。中国が島国ではなく大陸に大きく横たわり、常に周囲の脅威に晒されていたからこそ造営されたものだと、長く複雑な歴史を強く実感しました。

2日目に訪れた北京大学では、中国の在り方とともに変わる大学の様子や、学生の皆さんの勉強熱心な姿に驚きました。特に、大学構内を案内してくれた方々が、大学から日本語を学び始めたにも関わらず、日本人の私たちが聞いても違和感の無い発音の日本語を操られていたことは、大変な衝撃でした。私も外国語の勉強をもっと頑張ろうと思いました。午後に訪れた月壇中学校では、私たちを温かく迎え入れてくれ、お互いにプレゼントを交換しました。日本語の授業も体験し、私たちからは日本での老後の過ごし方について発表しました。月壇中学校で使われている日本語の教科書は漢字も多く、私たちと同年代の生徒の皆さんのレベルの高さに驚きました。後日、再び月壇中学校を訪問した際には、中国の伝統的な遊びである同心鼓の体験もしました。

この他に、たくさんのお名所旧跡を見学し、中国皇帝の故宮での生活や円明園が作られた時の逸話、最大で50万人を収容できるシンボリック施設である天安門広場などについて学びました。北京動物園では、私の想像よりもおっとりとした、本物の可愛いパンダを見ることができました。

今回の訪問事業では、たくさん学びがありました。旧跡で実際に見て学んだ歴史はもちろん、日本と近い国だと思っていた中国での歴史や文化、学び、生活の違いなど、列挙し始めたらキリがないほどです。また、この訪問事業を企画、運営して下さった皆さんの姿を見て、将来は国と国をつなぐ仕事をしたい、そのために今は外国語の勉強に力を入れたいと、心から思いました。



北海道札幌啓成高等学校 1年 「『大きい国』中国を訪れて」

【応募のきっかけ】

もともと高校では海外研修などの活動には、積極的に参加したいと考えていた。

夏休み前（7月？）、朝のホームルームで学級担任から中国訪問事業の紹介があり、その際「公的機関の交流事業であり、自己負担はない」と口頭で説明を受けた。その後、張り出されたプリントを読んで詳細を知った。

日本在住中国人の知人が多かったり、日本国内でも様々な形でニュースなどに取り上げられていたり、国を問わず海外の文化や環境や歴史などに興味があったこともあり、その日のうちに担任に「行きたい」と伝えた。

また、高校在学中に他の海外研修にも参加する予定であり、資金にあまり余裕がなかったため、事業参加の自己負担が少なかったのは大きい。

【現地での活動・様子について】

ガイドの方のおかげもあって、7日間で学ぼうとしていたよりも多くのことを学べた。

高校生との交流が一番楽しく、学ぶことも多かった。他の場所よりもコミュニケーションをとるのに困らなかったことも理由の1つだと思う。部活動や授業の体験だけでなく、中国（北京）の社会環境や人々の営み、観念や流行など、交流できたことは多岐にわたる。日本についても話すことができ、この交流事業での（自分の）1番の成功だと思っている。

街を観察していて「人が多い」というのが日本との違いを生み出している大きな原因だと感じた。みんなが同じようなスクーターに乗って行ったり、バス移動では何度も渋滞に引っかかったり、人混みでうまく歩けなかったり。喋り方や動きにも「「焦り」に近い速さ」や「「自分」を埋もれさせないための力強さ」を感じた。

観光地も含めて、中国の文化や歴史に多く触れることができた。



【全体に係る感想】

中国の歴史や伝統を多く知ることができる訪問だった。小・中・高校でも扱うような、観光名所として知られているような場所も、初めて聞いた博物館や前門大柵欄も、バスから眺める景色でさえも新しい発見であふれていて楽しかった。

だが、せっかく北京に来たのだから、街を歩き回って建物や人々を観察したり、海外の気候や自然について学んだりする機会がもっとあると嬉しかった。

自分の将来についてはまだ悩んでいるが、この事業はいい刺激になったと思っている。

今後の日中の友好や、海外との協力事業に貢献したいと思う。

自分の想像していた「中国」とは違う点が多かった。

過去に中国に行ったことがある方々からは、「トイレなどの設備が日本とは段違いに劣っている」「とにかく治安が悪い」「日本人というだけで舐められる」などと言われたが、実際にはそんなことはないと思っている。これは話を伺った方々が北京以外に行っていたり、行ったのが昔だったりしたのが原因なのだろうか。そう考えてみると、中国の発展の速度には驚かされる。

北海道札幌国際情報高等学校 1年 「初の試みと発展」

<きっかけ>

- 自分の英語の能力を実践的に利用して、自分の現在の能力を知るため。
- 中国と日本の文化の違いを比較して、自分の視野を広げるため。
- 日本語があまり通じないような初めての環境で過ごしてみたいと感じたため。

<1日目>

男子5人はもう距離が近く、1週間の不安も消えていました。中国に着陸するときには、きれいな夕日が自分たちを歓迎してくれているようでした。気づいた時にはスマホの時間は日本時間-1時間の中国時間になっていました。そのため、ほんの少しい日長く感じました。

中国については2時間ほどかけて入国手続きをしました。空港内だけでも3,4回パスポートを提示し、セキュリティ対策が厳重だと感じました。また、機内に預けた荷物を回収するときに空港内を列車で移動したことはとても衝撃的でした。

ホテルに着いたのは現地時間の21:30ごろで立派なホテルで、高級な夜ごはんを食べました。結構空腹状態だったので特においしく感じました。



<2日目>

主に万里の長城、紅劇場、天壇公園に行きました。万里の長城はゴンドラで移動するほどの山の中にあたり、結構急勾配な路がずっと続いていて、歴史的背景から考えると納得できるようなつくりになっていました。昼食は万里の長城近くの景色が良いレストランで食べました。初めての本場の中華料理で少し辛い物などたくさんの種類のもを食べることができました。

紅劇場では中国雑技を鑑賞しました。どれも人間離れしているようなものでハラハラ・ドキドキしながら見ることができました。天壇公園では日が落ちてしまっていたため、建物をあまり見ることはできませんでした。夜は昼食とはまた違う種類の大量の中華料理を食べました。

<3日目>

北京大学、月壇中学校、南鑼鼓巷に行きました。北京大学ではキャンパス内を回ったり、北京大学の歴史について学びました。敷地面積がとても広く、湖があたり何重にも重なった塔があたり美しく、自然がとても豊かでした。また、昼食は学食で昨日とは少し違った中華料理を食べました。昼時には学生さんたちが一気に学食を食べに来るので非常に混雑していました。



月壇中学校では、現地の生徒と交流しながら日本語での授業を受けました。現地の生徒はみんなフレンドリーでたくさん交流できました。連絡先も交換することができたのでこれかやり取りしていきたいなと感じました。

南鑼鼓巷は日本でいう下北沢のような場所で店舗が長距離並んでいました。夜はテイクアウトのジャージャー麺でした。本場のジャージャー面はかなり濃厚で印象強いです。

<4日目>

頤和園、円明園、月壇中、前門大柵欄に行きました。

頤和園では歴史的な建築物をまわりました。頤和園の中は湖があたり、丸形の建物、門、干支の岩な

ど歴史を感じるようなものがたくさんありました。

円明園では、昼食をとったり、歴史的な建築物の跡を見ました。昼食では、北京ダッグをはじめとした中華料理を食べました。北京ダッグは皮を巻いて食べるらしく、自分のイメージと違って、特に印象に残りました。

月壇中学校では、体育の授業と一緒に受けて、同心鼓を体験しました。やってみると結構難しく、協力が必須でした。

前門大柵欄ではお土産を買ったり、無印良品で日本食を食べました。お土産を買ったところの店主はとてもやさしく、とても印象に残っています。無印での食事は、本場の麻婆豆腐や水餃子などの中華料理の他に、お好み焼きやすき焼き、ソフトクリームなど久しぶりの日本食を食べることができ、なつかしさを感じました。

<5日目>

西城外国語学校、故宮博物館、王府井に行きました。

西城外国語学校では、現地の生徒とバスケットボール交流をしました。現地の生徒は身長が180センチ平均と、とても大きく迫力を感じました。スポーツ交流ということで結構盛り上がり、楽しいひと時を過ごしました。

故宮博物館は想像の10倍近く広い土地にあり、その広さと構造に驚きました。門が何個も連なっており当時の皇帝の高貴さなどをとても感じることができました。入口の毛沢東の肖像画も想像より大きく、とても驚きました。

王府井は日本でいう銀座のような場所でたくさんの店舗が連なっていました。敷地内は歩行者天国で、ゆっくり歩きながら百貨店や書店などを回りました。また、夜はしゃぶしゃぶを食べました。たれを自分で作ることができたので色々な味を楽しめました。

<6日目>

一日中ユニバーサルスタジオベイジングで遊びました。自分は絶叫系があまり得意ではなかったのですが、ハリポッターワールドで満喫することができました。

また、日本とは違って全体的に広く、規模が壮大なので待ち時間が全体的に短かったなと感じました。ちなみに自分は最初のアトラクションで、結構おなかいっぱいになりました。

<7日目>

精彩瓷博物館、北京動物園、月壇中学校に行きました。

精彩瓷博物館では、陶磁器の作成方法、彩色体験などをしました。中国を感じるようなデザインのものに彩色しオリジナルの作品を作ることができたので印象に残っています。

昼食はウイグル料理を食べました。今までの中で一番量が多くたくさんの種類のものを食べることができました。北京動物園では、生でジャイアントパンダを見ることができました。パンダはこちらにおしりを向けていることが多かったのですが、とても愛くるしかったです。

月壇中学校では現地の生徒との最後の交流で送別会というような内容でした。現地の生徒は本当に優しくかったので別れがつかない感じがしました。お土産交換もたくさんして色々なものをもらったので大切に保管したいです。

中国での最後の晩餐は前回とは少し違ったしゃぶしゃぶでした。今回のしゃぶしゃぶは羊肉を使ったもので、日本で食べるものとは全く違うように感じました。

<最終日>

中国時間の4:00から行動開始で名残惜しみながらも帰路につきました。このメンバーでの中国生活も

終わりをむかえ、さみしさが残りました。最後の機内食は毎日のように食べていたヨーグルトも出てきて、ありがたかったです。日本時間の 13:00 ごろ帰国しました。

<感想>

今回の中国友好訪問事業では、自分が成長するためにとってもよい機会でした。

実践的に英語を使う場面もあって、自分の実力を知ることができたのでよかったです。街の建物や車線の数など北海道にいたら経験できないようなスケールを体験したことで、北海道と中国、北京の価値観の違いを感じることができました。

また、実際に国に行くことで行った国と自分が住んでいる国のそれぞれの良さを見つけ出すことができたので、自分の国を見つめ直すいい機会にもなると思いました。

お互いの国のよいところをもっとアピールし、互いに取り入れ合うというようなことが大切だなと感じました。

世界の広さを感じることができたと思うので、これからもっと、自分の視野を広げて、多角的な観点から物事を考えられるようになりたいと感じました。これからは、自分たちの固定概念にとらわれず、発想豊かに過ごしていきたいと感じました。この友好訪問事業に関わってくれた人すべてに感謝して自分を発展させる良い機会にしたいです。

北海道札幌国際情報高等学校 1年 「こんな形で来られるとは！」

応募の理由…中学生の頃から中国の歴史や文化に漠然と興味があった。いつかでいいから都市部での留学や旅行をしたいと思っていた。また、今回の事業は旅費を全て負担してくれるのと公欠扱いになるので安心して参加できると思った。

日次	午前	午後	夜
1日目	10:00 札幌 羽田空港	12:00 羽田 北京	
2日目	8:00 北京 万里の長城	10:00 北京 頤和園	
3日目	8:00 北京 頤和園	10:00 北京 頤和園	
4日目	8:00 北京 頤和園	10:00 北京 頤和園	
5日目	8:00 北京 頤和園	10:00 北京 頤和園	
6日目	8:00 北京 頤和園	10:00 北京 頤和園	
7日目	8:00 北京 頤和園	10:00 北京 頤和園	
8日目	8:00 北京 頤和園	10:00 北京 頤和園	

8日間の日程はこうなっています。私はそのときまでドキドキを取っておきたかったので、下調べ等はしませんでした！

8日間過ごしての感想だけを言うと、初めての海外生活で体力が無かった私には少しキツかったです。3日目から音を立てていました。一生に一度だけの大切な8日間だったのに、疲れて記憶が少し霞んでる日もあり、それはすごく後悔しています。そんな事情があって、少し飛ばし飛ばし、また前半の記憶多めですが振り返ります。

中国に到着したら空港で早速、今回お世話になる関係者の方々と顔を合わせ、挨拶をしました。

横断幕を掲げて写真撮影をしていたら、政治デモと勘違いされたのか警備員の人に注意されて、それからずっと私たちの周囲を乗り物に乗って周回していました。日本では見ない中国らしい光景に早くも心が躍りました。しかし、同時に中国の政治事へのデリケートさを実感して言動に気を締めようと思った瞬間でもありました。



中国訪問はまず、中国屈指の世界遺産である万里の長城から始まりました。まだ元気だったというのがありますが、ここは1番思い出に残っていて「絶対にまた行きたい！」と思っている場所です。高い山の上に石垣と見張り楼が、なんと20000km先まで続いて、遠くから見るだけでもきれいですが、そこに立って歩くと石の道、四方の山や森の終わらない眺めが最高でした！一点の雲もない晴天に恵まれて、歩くのがとても楽しかったです。

その日の夜は、紅劇場という真っ赤な建物の中でこれもまた中国を代表する名物、中国雑技団の鑑賞をしました。パフォーマンスは技術、芸術性、華やかさや力強さのどれに置いても圧巻で、中には「体大丈夫か？」と心配が勝ってしまうものもありました。しかし、非常にレベルの高い公演だけあって演技に失敗する役者の方もいます。どんなハプニングが起きるか分からない、そんなハラハラ感を含んでいて公演は終始盛り上がりました。夢中で観ていたので、その姿を何もカメラロールに収めることができず…残念です。



ここで一つとても驚いたことがあって、それは役者の年齢です。この光景を想像したときに自然と役者の年齢は20代~30代を想像するかもしれませんが、私が見る限り中高生くらいのもとても若い役者が多かったです。小学生くらいに見える女の子もいて、むしろ成人している役者のほうが少数なのではないかと思うほどです。普通に生活していたら絶対に見ることのできない世界を覗けた気分、1人で色々な想像を膨らませていました。

3日目の午前は北京大学を訪問しました。日本語が話せる現地の大学1年生3名が北京大学を案内してくれました。学生の方の日本語がとても流暢だったので「何年間日本語を勉強しているんですか？」と聞いたら「1年半です」と言われてビックリしました。推薦で北京大学の合格が決まった後から勉強を始めたそうです。その努力と熱心さにビックリ！流石でした。

北京大学のあとは今回のメイン交流！の北京市月壇中学校へお邪魔しました。中学と言っていますが、ここは日本でいうところの中高一貫校で、私たちが交流したのは高校2年生の先輩たちでした。授業見学をしましたが、開幕早々「敬老の日」にまつわる映像が流れて、私でも内容を理解するのでいっばいのスピードと語彙でしたが、学生たちが必死にメモを取ったり単語を書き写っていて、またまた中国の学生の勉強熱心なところが見れました。

次の日ですが、この日からかなり記憶が霞んでいて、特にこの日は疲れていた気がします。なので、少し関係ないことを書きます。



中国の観光スポットには高い確率で写真のような3D型のアイスが売られていて、円明園を訪れたときに自由時間があったので実際に食べてみました。山楂(さんざし)味やバラ味など珍しいものもありましたが、私はいちごが好きなのでそれを買いました。7日間、コンビニでもいちご味のスイーツや飲み物を買って色々食べていましたが、日本と中国の「いちご味」はかなり違いがありました！特に違うところは匂いです。日本のものは砂糖っぽい甘い香りがしますが、中国のものは華やかでバラっぽい香りがするなあと感じていました。

5日目です。この日は西城外国語学校という第一外国語が日本語というとても珍しい学校にお邪魔して、バスケのゲームをしました。スポーツを一緒にして初めて気付いたのですが、中国の学生めっちゃ背が高い！男子生徒はもちろん女子生徒も背が高く綺麗なスタイルの人が多かったです。バスケをする前に、学校でたくさんのお菓子とお茶を振る舞ってもらいました。食べたことのない不思議なお菓子がたくさんあってとても楽しめました。特に気に入った写真のお菓子は、しっかり写真を撮って調べてお土産に買いました。



6日目です。待ちに待った北京ユニバ！私はこれが初ユニバで、まさかデビューが北京になるとは思いませんでした…。
ユニバでは、SNSで見かけるような嘘だと思っていた美貌の女性がたまに歩いていて、本当か！と時々驚きました。ちょっとだけお財布が心配になる瞬間もありましたが、中国限定のカチューシャも購入できて、とっても楽しい思い出になりました！

悲しい！ですが最終日！ユニバ後でももちろん疲れていますが、終わりが見えてきて悲しいので、力を振り絞って思い出を目に焼き付けました。

月壇中学校のみんなに見送ってもらったあとは、チベット民族の料理を食べに移動しました。道中のバスで、「どうしてこのタイミングで、君たちをここへ連れて行くのか、その理由を考えてほしい」と言われたのを覚えています。もちろん、分かっていますよ。

最後は月壇中学校の校長が肉鍋パーティーを開いてくださいました！恐ろしい量のお肉が運ばれてきましたが、失礼のないようにみんな限界まで食べ切ってお腹いっぱいになりました！先生やみんなとの会話

も盛り上がっていったらこれで終わりなんだ…と思って悲しい気持ちもあるけど、ちょっとだけ日本に帰りたい気持ちもあったり複雑でしたもうこれでイベントは全部終わりです。



空港に着いてから、お土産に買った北京ダックの持ち込みができないことを指摘されて絶望しました。ここで捨てられるのかと思って悲しくて泣きそうだったけど、空港の職員の方が翻訳機を使って慰めてくれてなんとか落ち着けました。

しかも、なぜか荷物検査通ったので持ち帰れました。

今回の訪問でお世話になった方は数え切れずいます！先生、校長、翻訳者さん、バスの運転手さん、道教委の皆さん、引率の先生、両親、…一生忘れられない大事な大事な経験をさせてくれて、本当にありがとうございます。絶対に私の成長に役立てて見せます！！

北海道札幌東商業高等学校 1年 「中国で過ごした8日間」

1 応募した理由

私が応募した理由は主に3つあります。

1つ目は、現地の高校生と日本の高校生の違いや共通点を知りたかったからです。

2つ目は、私は中国語部に入っていて、中学生の時から中国語に興味を持っていたので、自分の苦手な分野・得意な分野を知りたかったからです。

3つ目は、一週間でも自分の言語力や自立心を向上させることができると思ったからです。

2 現地での活動・様子について

海外の高校生と交流し、万里の長城など世界遺産を訪れたので、初めてのことが多く、すごく充実した8日間を過ごせました。

月壇中学校や西城外国語学校では交流だけで終わら



ず、We ChatのIDを交換してこれからも連絡し

ようと言ってくれたり、プレゼント一つ一つに日本語で手紙を書いてくれて感動しました。

また、現地の人に話しかけられて中国語で会話できた事が嬉しかったし、もっと頑張る勉強しようと思いました。



3 全体を通しての感想

8日間あっという間に過ぎてしまいましたが、とても貴重な体験をさせて頂きました。これからもこの中国に行った思い出と学んだ事を忘れず、言語力が上がるように頑張りたいです。

北海道札幌東商業高等学校 2年 「初めての中国で過ごして学んだこと」

今回の「北海道青少年中国友好訪問事業」に応募をした動機は5つあり、1つ目は、元々中国に興味があり、中国語を昔から勉強していたので、この機会を受けてぜひ参加してみたいと思ったからです。2つ目は、この機会を通じて中国の方とコミュニケーションをとりたいと思っていて、自分の将来は中国ではないのですが、同じ中国語圏である台湾に留学したいと思っていたからです。3つ目は、中国の生活がどのような生活を送っているのか知りたかったからです。

4つ目は、この目で中国の観光地などを見てみたいと思ったからです。5つ目は、自分が知っている中国のイメージ、そして、そのイメージと合っているのかどう違うのか、自分が行って知りたかったからです。

実際に中国の空港に着いて思ったことは、まず規模が大きく、空港内でのスローガンが禁止ということです。そのためか空港内に公安の方が沢山いた印象でした。



中国に着いて最初に訪れた観光地は万里の長城(慕田峪长城)です。慕田峪长城ではロープウェイで山頂まで登り、頂上では遥か彼方まで見える遺構を見ることができました。

万里の長城を訪れて思ったことは、まずここは日本で有名な中国の観光地で、中国でも5Aに選ばれていることがわかりました。いざ歩いてみると、まず地上から高い位置に建造していること、周りを見渡せることができること、段差が多いこと、節目ごとに〇〇番という名前がついていることがわかりました。



次に訪れたのは紅劇場です。ここでは中国の大道芸を見ることができました。日本と違う点は音楽にのせてアクロバティックな演技が多く、観客の自分たちにとっては驚くことが多かった印象でした。いろいろな場面がありましたが、どれも感慨深い演技でした。最後には日本で有名な変面を見ることができました。

次に訪れたのは北京大学です。ここは中国で1、2を争うぐらいの頭の良い大学であり、日本でいう東大であることがわかりました。敷地はすごく広い印象で、徒歩で移動するだけでなく、自転車やバイクなどの交通手段がありました。北京大学校史館では北京大学の歴史を学ぶことができ、様々な方の名言や展示物などがありました。生徒数も多かった印象です。



次は月坛中学校訪問です。月坛中学校は3回訪れました。この学校での第一印象は、生徒だけでなく先生も日本語が流暢だったということです。この学校は中国で唯一の日本語を第一外国語としている学校で、みな自信をもって自分の母国語ではない日本語を話していて、自分ももっと中国語を自信をもって話せるように見習いたいと思いました。2回目の訪問では、学校交流でいろいろな遊びをしたりして楽しみました。3回目の訪問では、送別会でした。送別会では、これが今回の事業の最後の学校交流となるので自分が思っていたことを各自話したり、最後に集合写真をもらったりしました。

次に訪れたのは圓明園、頤和園です。この二つは隣接していますが、一つ一つがとても広く、歩いていてもその広さを実感しました。頤和園では長い通路があったり、真ん中には大きい湖があったり、そこから

見える景色に感慨を受けました。

圓明園では、いろいろな遺構があり、規模の大きかった施設が昔に取り壊されていて、それが遺構として残っていたりしていました。圓明園展览馆では圓明園に関する様々な展示物が展示されていました。

次に訪れたのは北京市西城外国语学校です。ここでは学校交流でバスケットボールの試合をしたりしました。

次に訪れたのは故宫です。故宫は教科書などいろいろな場面で目にする機会はありますが、実際に生で見ることが初めてだったので、とても感慨深かったです。思っていたよりも何十倍も広く、自分たちは午門から乾清宮まで歩きましたが、とても時間がかかった印象です。道中では、いろいろな門や宮を見たりして、楽しかったです。特に自分が感銘を受けたのは、故宫は清の時代なので所々に満州文字が記載されていたことです。



次に訪れたのは天安门广场です。ここは日本でも有名な場所であり、生で見えてみて思ったことは、とても大きく且つ、高さもあったことです。自分が来たときはほかの国の大統領が来ていました。夜はライトアップされていました。

次に訪れたのは北京环球影城です。ここは日本にもあるユニバーサルスタジオジャパンの北京バージョンです。自分は以前日本のユニバーサルスタジオジャパンに行ったことがあるので比較して言いますと、大まかには日本と同じですが、中国限定のアトラクションやエリア、中国限定のお土産などがありました。そして規模は日本よりとても広く、エリアを跨ぐのにも時間がかかりました。一日中楽しんでよかったですと思いました。

次に訪れたのは京彩瓷博物館です。ここでは、芸術作品や陶器、陶器の作り方などを拝見しました。そして、中国の伝統的作品、兔爷を作成しました。

最後に訪れたのは北京动物园です。ここではパンダをメインに見ました。北京动物园ではパンダが有名で見るのは初めてでした。パンダを見て思ったことは大きかったことです。

自分が今回の「北海道青少年中国友好訪問事業」を通じて感じたこと、思ったことは、やはり自分の目で見て感じたことが正しいということです。なぜなら、皆さんは中国に対して様々な意見があると思いますし、マイナスな意見も少なからずあると思います。しかし、こういう経験をしたり、話したりすると、そのような意見もなくなると思います。

またこのような経験をできたということで、自分の糧にもなるし、見方も変わると思いました。今回でいろいろな中国の方々と交流できたり、支えられたりしたのですが、それもいい経験だと思えます。

最後になりますが、このような機会を設けてくださった北海道教育委員会、中国総領事館、北京市教育委員会の皆様、本当にありがとうございました。このような体験をもとに、いろいろな情報などを発信したり、伝えたりしていきたいと思えます。

北海道札幌東商業高等学校 2年 「初めての中国！」

私が、北海道青少年中国訪問事業に応募した理由は、2つあります。1つ目は、中国の料理に興味があったからです。理由は、家族が中国の料理がとても大好きで家でも夜ご飯などに中華料理がよく出てくるため、本場の中国料理の味を知りたいと思ったからです。2つ目は、学校の授業で中国語を学んでいるためペラペラではないですが習ったことを生かそう、現地の方とコミュニケーションをとってみたい、と思い応募しました。

現地での活動・様子については、まず1日目に万里の長城に行きました。テレビでしか見たことがなかったのですが、実際に着いて見てみるととても大きくて坂の角度がすごく斜めでびっくりしました。今回はゴンドラで上まで上がって少しの距離しか歩いてないですが、実はゴンドラの横に上まで歩く道があり、その角度も結構な斜めでしたがおじいちゃんやおばあちゃんが挑戦して歩いていてすごいなーと思いました。今度また中国に行く機会があれば最初から最後まで歩いてみたいと思いました。

2、3、6日目は、月壇中学校に行きました。日本語の授業を体験させてもらったのですが、日本人でも難しい内容の授業をしていてレベルが高いなと思いました。そして、生徒の皆さんの日本語がとてもペラペラで、今すぐ日本に来て大丈夫くらいとても上手でした。私も日本に帰ったら中国語をペラペラにしゃべれるように猛勉強しなきゃと思いました。

5日目は、北京のユニバに行きました。中国に行く一週間前に修学旅行で初めて大阪のユニバに行ったのですが、同じユニバだからキャラクターとか同じなのかなと思ったら全然違うキャラクターばかりで、その中に私の好きなトランスフォーマーや今年の5月に公開されたワイルドスピードで実際に使われた車がありとても嬉しかったです。そして、天安門広場に行ったのですが、中に入ってみるととても広く、たくさん歩いたと思ったのですがまだ全体の1割も歩いてないという事実を知り「えーまだ歩くのー！」と心の中で叫んでいました。夜ご飯に無印良品のホテルとレストランが合体しているところでご飯を食べたのですが、どんな中国料理が出てくるかなと思ったらほとんど全部日本料理で、すき焼きやお好み焼き、肉じゃがが出てきました。味は多少違うのかなと思い食べてみると日本と味が全く一緒でとても美味しかったです。

全体の感想は、初めての海外だったのですがその初めての海外が中国でよかったなとも思いました。現地の人皆さんとても優しい人ばかりで楽しい思い出を作れました。一番びっくりしたことは、トイレは日本みたいに個室ではあるけど腰までの高さの壁しかないので隣の人が見えることです。これには動揺を隠せませんでした。でも、トイレを我慢するよりは恥を捨ててトイレ行った方がいいです。中国料理は辛いものは本当に辛くて口の中がめっちゃ痛かったです。南鑼鼓巷で、女性二人に声をかけられ「これあげる」みたいな感じでかわいいピンをもらったのですが、それが詐欺みたいなのは気づかず危うくお金をだまし取られるところでした。なので繁華街みたいなところに行くときはとても注意した方がいいです。現地の方とても仲良くなれたし、ガイドさんだと思っていた外務省の女性の方とても仲良くなりすごく充実した一週間になりました。今回はこの、北海道青少年中国友好訪問事業に参加させていただきありがとうございました。



北海道千歳高等学校 1年 「中国で学び得たこと」

＜応募のきっかけ＞

私が今回この事業に応募したきっかけは、担任の先生の声掛けでした。「こういう事業があるけれど、良い機会になるだろうから応募してみてもどうか?」。私は元々そんなに積極的な性格ではなかったため、普段から外国など存在することはもちろん知っていましたが、どこか遠くの世界だと思っていました。ですが、募集要項を見ていくうちに挑戦してみたいと思うようになり、親を説得して応募することにしました。

しかし、最終的に行くことが決まった時は嬉しい気持ち半分、初めての外国で本当に大丈夫かなという不安な気持ち半分でした。

＜現地での活動・様子＞

1日目、北京空港に到着して、バスでホテルに向かうときの車窓から見た景色がとても印象に残りました。今まで見たことのないスケールの建物が沢山あり、このときに世界はとても広いんだなと思いました。2日目以降は慕田峪長城や天壇公園、頤和園、円明園、天安門広場などへ行き、教科書でしか見たことのない歴史的な建造物や名所を自分の目で見る事が出来ました。

また、北京大学や月壇中学校、西城外国語学校へ訪問させていただき、中国の学生の方々の勉強に対する熱意を感じる事が出来ました。そのほか、USB「ユニバーサルスタジオ北京」は日本のUSJにも行ったことが無かったのでとても楽しかったです。また、北京動物園では、初めてパンダを見ることができ、良い思い出となりました。



＜全体的な感想＞

今回の訪問を通して一番印象深かった事は、日本と中国の生活様式の違いです。私が特に驚いた事は、食事中などに水を飲まずにお湯を飲むことや、トイレで用を足した後に拭いた紙をトイレに流すのではなく側に設置されている入れ物に捨てることです。国が違うとこんなにも違う事を体感しました。

また、出発前ちょうどテレビ等で中国国内の様子を知る機会が多くあり、中国の人は日本人が嫌いなのかな、中国へ行ったら私達も罵声を浴びさせられたりするのかもしれないととても不安でした。しかし、滞在中お世話になった中国の



方々や訪問先の学校の生徒さん達はとても気さくで親切な方々で、私の心配は杞憂で終わりました。この事から、私はテレビやインターネットの情報だけが全てではない事を学びました。私達は情報が溢れた現代社会で生活していて、メディアが流した映像や文章をついそのまま信じてしまいがちです。しかし、それは一部分は本当であっても全てとは限らないという事です。流れてくる情報を鵜呑みにするのではなく自分の目で実際に見たり、検証する事がとても重



要だと感じました。

出発前、なんとなく毎日を送っていた私がこのような事に気付けたのは、今回の訪問に参加した中でとても大きな収穫でした。この事はこれから学生生活を送っていく上で念頭に置いていきたいです。

最後になりましたが、今回このような機会を与えてくださった関係機関の皆さま、本当にありがとうございました。



北海道室蘭栄高等学校 1年 「一生の宝物」

学校に掲示されていた中国への訪問のリーフレットを見て、中国に興味を持ちました。私自身、外国や世界のことに興味があり、日本との相違点や、中国の特色をより深く学びたいと思い、参加しました。

渡航前は異国の地での生活に少し不安と緊張感がありました。しかし、現地の方々が中国の空港に出迎えに来てくださり、笑顔で私達を歓迎してくれて、とても安心したのを覚えています。そして、北京の高層ビルや夜景を初めてみたときの感動が今でも心に焼き付いています。

中国の自然は美しく、文化は最先端なものでした。日本とは違い、キャッシュレス化が急速に進んでいて、ほとんどの人が電子マネーを使用していて、衝撃を受けました。

学校訪問では、日本語を第一外国語としている月壇中学校や、外国語を積極的に学んでいる西城外国語学校、北京大学へ行きました。どの学校も流暢な日本語を話す生徒さんが多く、感銘を受けました。また、その生徒さんが将来日本に留学したいと考えていることを知って、嬉しくなりました。私も語学学習に更に力を入れたいと感じました。交流したひとは忘れられない大切な思い出です。そこで仲良くなった生徒さんとは年賀状を送りあう予定です！

最後に、このような機会をつくってくださり、準備してくださった皆様には、心から感謝しております。中国の美しい自然や文化に触れることができただけでなく、新しい出会いやチャレンジがありました。中国で感じた喜びや感動は、一生の宝物です。本当にありがとうございました！

北海道室蘭栄高等学校 1年 「意外な視点」

<応募動機>

純粹に海外に行きたいと思っていた際に、偶然今回の事業のポスターが目に入り、ぜひ参加したいと思ったため。

[1 週間のスケジュール]

～1 日目～ 新千歳空港→北京首都国際空港

機内食は焼きそばやハスカップのゼリーだった。北海道らしく、なかなか良いと感じた。フライトが終了し、到着すると様々な手続きがあった。自分はパスポートにきちんと入国スタンプが押されていないために出国時に少々時間がかかった。バスの中でガイドの方とお目にかかった。ホテルに到着後夕食があったが、初日は微妙な料理もあった。ステーキの肉は部位によって硬さが違い、質の悪い肉が使われていることが明らかであった。さらにスープは味があまりにも薄かった。パンやサラダ、デザートはなかなかのものだった。日本で出したら苦情が入ってもおかしくないもので、予想はしていたが驚いた。なお他の日は普通に美味しい料理だったので、偶々だったのかもしれない。その後部屋に行き、次の日に備えた。自分は一人部屋だったのだが、水の独特の触感が気になった。少しアルカリ性で飲用としては使えないようだ。



～2 日目～



夜中に起きてしまい慣れない環境ならではの不安を感じた。朝は6時10分頃に起きて、朝ご飯を食べた後万里の長城へと向かった。意外と時間がないので持ち物の場所は確認すべきである。到着して少し歩くとパスポートを見せて通らなければならなかった。今回の研修ではこれが何度もあった。ロープウェイに乗り、ついに万里の長城に到着した。とても壮大な景色で、始皇帝の時代から続く世界最大級の建造物だと改めて感じた。その後タクシーに乗り高いところにある食事会場に向かった。人懐っこい野良猫が大勢いてとても愛しかった。バスに乗り、雑技団を見に行った。はっきり言って人外、マトリックスも顔負けの動きをしていた。日本ではまずありえない光景だ。ほかの生徒があまりの興奮から団員と写真撮影をしてCDも買っていた。その後月壇公園に行き、歴史について学んだ。

～3 日目～

この日は北京大学に向かった。北京大学の日本語専攻の学生はとても日本語が上手だった。いろいろ説明を受けた後食事をし、麻婆豆腐のような本格的な中華料理を食べた。そのあと月壇中学校で現地の生徒たちと夏目漱石についての授業、言わば日本語の授業を受けた。対句のような表現も学習しており、驚いた。そして歓迎会もあった。プレゼント交換もあり、室蘭の絵のマグネットを渡した。

そのあとは繁華街で買い物をした。コアラのマーチの所謂「パクリ」商品やドラえもんらしき人形があり少し笑った。夜ご飯は繁華街でガイドさんが皆に買ってくれたチャーシュー麺。冷やし中華風で美味しかった。

～4 日目～

この日は綺麗なところに行った。まず昼ご飯に北京ダックを食べた。皮と肉のバランスが絶妙にあって

おり、かなり美味であった。その後円明園に行った。アロー戦争、第二次アヘン戦争でフランスとイギリスに破壊された建造物だ。歴史好きとしてはとても嬉しい経験だ。そのあとは月壇中学校で体育を行った。紐がたくさん結ばれている太鼓でボールを何回バウンドさせられるか競うゲーム、先端が曲がった棒を使ってどこまで金属の輪を回せるか競うゲーム、綱引きを行った。綱引きは負けてしまったが楽しかった。ほかの二つのゲームもとても面白い。

夕食は北京の無印良品ですき焼きなどの日本食を堪能したり、ガイドさんの奢りでソフトクリームを頂いた。思ったよりも美味しく驚いた。その後は近くで買い物をした。お土産屋で学校の皆へのお土産を買おうとしたのだが、とても優しい店主の方で、わざわざ翻訳サイトを使って「慌てないで」と教えてくれた。中国語を話せる生徒もいたので頼りになった。なお英語は通じなかった。

～5日目～

午前中は西城外国語学校で現地の生徒が作った映画を見たり、校内の資料を見たり、北京の名物のお菓子やミカンをいただいた。さらにバスケットボールの交流も行い、皆楽しんだ。



その後はかの有名な天安門に行った。近くで厳重なチェックが行われた。ちなみにコロンビアの政府が訪問していたそうで、広場には入れなかった。かつて惨劇が起きた地面には触れることができなかった。その後毛沢東の肖像画のある入口の奥に進んだ。広大な天安門の中を歩き、歴史を学んだ。その後は買い物にまた行き、書物なども見た。今度はちゃんとしたドラえもんがいた。その後しゃぶしゃぶの店に行き、色々食べたり、イケメンの店員さんが華麗な麺のばしのテクニックを披露していた。面白い。

～6日目～

バスにしばらく乗ってユニバーサルスタジオ北京、略すならUSBといった遊園地にいった。USJの北京版と言えばわかりやすいだろう。様々なアトラクションを楽しんだのだが、こればかりは実際に行って見てほしい。USJとの相違点を探すのも趣があるだろう。日本より空いていると以前USJに行った生徒が言っていたが、十分混んでいた。教頭先生や親へのお土産も買った。



～7日目～

この日は美術館で数百万円（日本円で）するとも言われる作品を鑑賞したり、実際に石に絵の具を塗って作品を作ったりした。後々見ると思ったよりも出来は良かったかもしれない。小学4年生の作品に相当するだろう。そしてその後はホテルに一度戻り、しばらく休憩し、北京動物園に行きパンダを見て癒され、お土産を購入した。その後月壇中学校へ行きお別れ会を行った。前に渡せなかったお土産も渡せて満足。その後、羊や牛のしゃぶしゃぶをいただいた。最後の晚餐だ。

～8日目～ 北京首都国際空港→新千歳空港

この日はついに帰国。4時半前には起きて、準備を行いバスに乗って空港へ向かった。そこでバスの運転手さんと別れ、空港内ではガイドさんと別れた。かなり寂しかった。1日目のところに記載したようにパスポートにスタンプが押されていなかったのが出国に自分は時間がかかった。日本ではこのようなことは起こり得ないので、残念ながら中国らしいと思った。

そのあと飛行機に乗り込み、機内食として中華料理をいただいたのだが横が中国の40、50代とみられる女性で、親切に食べ方を教えてくれた。ちなみにCAの方はおそらく中国人だったのだが、自分の知っている英語で会話のできたので、日頃の学習の成果が出て嬉しかった。そのあとは新千歳空港に到着し、皆と別れたのであった。

＜全体を通しての感想＞

自分の思い描いていた中国と少し異なるところがあった。それは親日的な人が多いことだ。インターネットやテレビなどでは福島処理水の一件で反日感情が非常に高まっていることが分かり、とても行く時不安であったが、実際は皆優しく、挨拶や丁寧な態度の人もいた。実際行ってみないと分からないと言いたいが、偶々出会わなただけの可能性もあり得るため、一概には言えない。

北海道登別明日中等教育学校 5年 「忘れられない思い出」

＜きっかけ＞

友達から教えてもらいました。友達がこの訪問事業に応募すると聞き、どういう事業なのか気になり調べてみると、とても興味を持つ内容だったので、応募しました。自分は歴史が好きで、小学生のころは歴史に関する本をよく読んでいました。また、海外にも興味があり一回でもいいから日本とは違う国に実際に行って五感を使って感じたいと思っていました。

＜活動内容・様子＞

10月下旬、私達は北京へと出発しました。4時間のフライトが済み、北京空港に到着しました。飛行機を降りた途端中国語の文字が見え、中国語を話す声が聞こえた瞬間、「あ、自分はもう海外にいるんだ」と思われました。

長い入国審査を抜けた後、バスに乗り一週間滞在するホテルに着きました。夕食を済ませ、この日は寝床に付きました。北京の初日、起床し朝食をバイキング形式で食べました。この一週間朝食はバイキング形式だったのですが、本場の中華料理はとても美味しかったです。特に私は水餃子のスープがお気に入りで毎日食べていました。そして朝食を済ませた後、あの有名な世界遺産、万里の長城へ行きました。リフトなどに乗ってついに万里の長城に足を踏み入れました。写真で見るとは大違いと思えるほど壮観で感動しました。頂上までは行きませんが、それでも万里の長城から見る景色は最高でした。その後、万里の長城を眺める事ができるレストランで昼食を摂りました。

次に、紅劇場、別名レッドシアターに行きました。雑技団のショーを見ると聞いた時は雑技団ってなんだろうと自分はわかっていませんでした。しかし、いざ始まると人間離れした技が次々と披露されていきました。あまりのすごさに私は口を開けて見ていることしかできませんでした。今でもあのショーは頭の中に残っています。その日の最後に天壇公園にいきました。しかし、すでに外は暗くあまりちゃんとは見れませんでした。中国の歴史を感じられるような場所でした。



北京二日目は最初に北京大学に行きました。この大学は日本でいう東京大学ほどの超難関大学です。北京大学の学生の方々にキャンパスツアーをしてもらいましたが、日本語がペラペラで驚きました。大学内を案内してもらおうと、学科によって沢山の建物があり、図書館でさえも大きかったです。さらには広大な敷地を持っており、家さえもありました。北京大学について博物館に特別に案内してくださり、もちろんすべて中国語でうまく理解はできなかつたのですが解説をしてくれて、とても長い歴史を持っているんだなと思いました。

次に北京月壇中学校に行きました。実際に授業に参加して生徒さんたちと交流したのですが、生徒さんたちが日本語を流暢に話すので同じくらいの年齢なのにすごいなと思いました。自分は高齢化社会について、日本語で話し合う授業に参加しました。

その日の最後に南鑼鼓巷にいきました。東京でいうと下北沢らしいです。縦一列の左右にお店が広がっており色々なお店があって楽しかったです。そこでジャージャー麺をテイクアウトしてホテルに戻りました。味は美味しかったのですが、少し濃かったです。北京三日目に頤和園に行きました。頤和園に入ると大きな池が見えてきました。頤和園はとても広く、一日いっぱい使ってやっと全部見切れるほどです。様々な建物を見ましたが一番印象に残っているのは長廊です。長さはおよそ728メートルもあり、さらには一つ一つ違う8000枚もの絵が描かれています。よくこんなの作れたなと思いました。その後、昼食を取ったのですがそこで初めて北京ダックを食べました。最初は丸ごとくるのかなと思っていましたが、



カットされた状態が出てきました。皮はカリッと肉はジューシーで、北京に来たら絶対に食べるべきと言えるほどでした。



次に円明園に行きました。園内は戦争によってほとんどが破壊された状態でしたが、遺跡などが残っています。歴史の教科書か資料集で見るとような遺跡もありました。歴史をよく感じられて良かったです。次に再び月壇中学校に行きました。グラウンドで同心鼓というチームプレイが必要なものをやったり、初めて見るような遊びをしたりとどれも楽しかったし、生徒さんたちとも交流できて嬉しかったです。



最後に前門大柵欄に行きました。商店街になっており、日本という浅草のような場所です。グループで行動して、ここでお土産を買うなどをしました。the 中国のようなお店が沢山あって楽しかったです。

北京四日目に西城外国語学校に行きました。ここで学校内を案内してもらった後、生徒さんたちとバスケットボール交流をしました。私たち対西城外国語学校の生徒さんたちと試合をしました。白熱する試合をすることができ、とても楽しかったです。

次に天安門と故宮に行きました。正直ここが一番怖かったです。実際、ここで日本人が捕まったこともあったので不安でしたが、テレビで見る天安門より圧倒的の存在感がありました。中に入ると中国の建築様式が施されており、とても良かったです。

最後に王府井に行きました。ビルが沢山並んでおり、東京でいう銀座のような場所です。百貨店やブランドショップなどの大型店が多く、物価が高かったです。



北京五日目、丸一日ユニバーサルスタジオベイジング略して USB で遊びました。どのアトラクションも迫力満載で楽しかったです。

そして北京六日目、最初に博物館に行きました。中国の文化である陶磁器を学び、実際に色を塗って体験しまし



た。

その後、北京動物園に行きました。私は初めてパンダを見ましたが、まんまるとした体につぶらな眼がとても可愛かったです。そして最後に月壇中学校にお別れの挨拶をしに行きました。私達一人一人から感謝の気持ちを伝え、記念品をもらいました。一週間という短い間でしたが本当に最高で大切な思い出となりました。そして次の日に日本に帰国しました。

<感想>

この訪問事業を通して中国への考え方が変わった気がしました。日本とは全く違うような衣食住、文化、歴史もあれば、似たような部分もあったりとまだまだ沢山あるなと思いました。今回の事業で国際系の仕事にも前より興味を持ちました。短い時間でしたが、今回の経験はこれからどうしていくかの将来への選択肢になったと思います。ほんの少しですが、日本と中国との架け橋になり、それを次の世代へと繋げられるように努力していきたいなと思いました。



研修報告書「北海道青少年中国友好訪問事業の引率業務報告書」

北海道札幌東高等学校 教諭

＜現地での生徒の様子＞

令和5年（2023年）10月21日（土）からの8日間、8つの道立高校等から参加した16名の生徒を引率して、中国の北京市を訪問しました。本事業は、北京市の青少年との交流や文化、歴史に触れることにより、次代を担う両国の青少年が相互理解と友好を深めるとともに、本道のグローバル人材の育成を目的として実施されており、参加した生徒は、その目的を果たすために、主体的かつ意欲的に研修に取り組んでくれました。

新千歳空港で行われた出発式においては、参加生徒がはじめて顔を合わせ、はじめての国際交流への参加ということもあり、多くの緊張と不安を抱えながらの出発となりましたが、すぐに新しい仲間と打ち解け、積極的に行動し、見学や交流活動から多くのことを学んでいく様子には、当初の心配は払拭され、頼もしさを感じました。特に、訪問校である月壇中学校の生徒とは、あっという間に心を通わせ、以前からの友人であるかのように楽しく交流するとともに、万里の長城や円明園など、歴史の重みを感じることでできる代表的な見学地においても、知的好奇心をかき立て、目を輝かせながら、熱心に研修する様子が印象的でした。日没が近くなっても、「少しでも見学したい。」という強い希望から、薄暮の天壇公園を巡ったりもしました。

慣れない海外での生活のため、疲れから体調が優れなかったり、朝起きられなかったり、落とし物をしたりとするなど、さまざまなハプニングもありましたが、それらも含めて、今回の経験が参加した生徒を成長させてくれたことは、新千歳空港での解散式での生徒の逞しさから強く感じることができました。

＜引率教員として学んだこと＞

これまでの引率経験から、生徒の順応力や適応力の高さはある程度理解していましたが、特に今回は、そのスピードに感心させられました。中国国内では、インターネットやSNSの使用に、我が国とは異なる制限があるため、参加生徒は訪問先の生徒との交流等に、中国版LINEとも言われる「WeChat」を使用することとなりました。昭和世代の私としては「SNSに頼ることなく、言葉と心で通じ合おう。スマートフォン頼りにならないように」という気持ちにもなりましたが、お別れの時に互いに涙を流し合う様子を見て、対面のみならず、オンラインでも心を通い合うことができること、短期間に交流を深めるには有効な手段であり、巧く活用すべきツールだと実感しました。

私は概ね10年ごとに中国を訪れていますが、ここ10年間での伸展は目を見張るものがあります。経済発展や街並みの変化はもとより、電動自転車やキャッシュレス化の普及など、我が国にとっても参考になることが多くあり、海外に出て、他国を知ることは、自国や自分自身の価値観を見つめ直すことにもつながることを改めて認識しました。

＜事業全体への感想や課題＞

コロナ禍で中止していた国際交流事業が徐々に再開され、今回関わることができたことを、嬉しく思います。事前・事後の準備や運営に携わっていただき、充実した研修となるようご配慮いただいた両国の関係の皆様に関心から感謝いたします。生徒は、ピュアな心で“今”の中国でリアルに見聞したものを吸収していました。グローバル化が進展する中で、どのように諸外国と関わっていくのが生徒に問われる課題となります。改めて、今回の交流での経験をもとに、両国の歴史や文化、国民性などに目を向け、自らの学びを深めるとともに、再び自らの意志で海外に出て、相互理解と友好を一層深め、真の国際人になってくれることを心から期待しています。

